

2017年度「フィールド実習」一覧

2017年 3月 6日
文学学術院

名称 中国語による専門演習——中国で専門ゼミを実践する

指導教員 千野 拓政

受入機関

上海大学中文系・文化研究系

費用

約16万円(旅行代金の変動に伴い、変更があり得る)

実習場所

中国上海市上大路55号上海大学中文系

活動期間

2017年10月2日～2018年2月 3日(準備ゼミ)(8日間/計12時間)
2018年3月6日～2018年3月14日(実習)(9日間/計37.5時間)
(受け入れ機関の都合で変更の可能性あり)(総計17日間/49.5時間)

主な活動内容

- ①4日間午前中2コマ、担当教員の立ち会いの下、上海大学の学生とともに上海大学の教授の講義を受ける。(講義内容は後日決定する。現代中国の文化・社会に関するテーマが中心となる)講義の最後に、午後の討論のための課題が与えられる。
- ②午後1コマ、課題に即して日中双方の学生が報告・討論する。
- ③討論終了後2コマ、毎日一つ課題を設け、入門班と合同して、学内外で調査活動をおこなう。(例えば、上海の物価調査、学生生活インタビュー、上海各市区[旧鼎城、旧租界、建国後の開発区、近年の開発区など]の特徴の観察など。上海大学の学生が付きそう。)最終日に報告会を行い、成果を中国語で報告する。
- ④自由行動日を設け、グループに分かれて市内にでかけ、観察・調査を行う。調査対象は各グループが自己申告する。(5コマ)
- ⑤魯迅記念館、魯迅故居などを訪れ、解説員の中国語による説明を聞く。
- ⑥専門演習班の学生(2年生が主体)は、入門班と合同で調査活動を行うことで、リーダーシップの養成を図る。

評価方法 : ①秋期に隔週開講する実習準備ゼミにおいて、リスニング、資料の解説、中国語による討論を課す。与えられた課題をすべて終了することが求められる。
②上海での実習に参加し、中国語による講義、課題の報告、中国の学生との討論、学内・市内での観察・調査活動を行う。(事前に、講義の資料などは読んでおくことが求められる。)

募集時期 : 9月21日 ～ 10月2日

選考方法 : 文学学術院で2年間中国語を履修した程度の語学力を有すること。ならびに秋期に隔週開講する実習準備ゼミに参加し、中国語による授業、討論リスニング、プレゼンテーションなどの訓練を受けたうえで、実習に参加すること。
10月2日(月)2限に千野研究室で面接選考を行う。

備考 実習準備ゼミは秋期・隔週月曜2限または6限に千野研究室で行う。(時間割は履修者と相談して決定する)
海外への学生引率助成を申請の予定(毎年申請している)

2017年度「フィールド実習」一覧

2017年 3月 6日
文学学術院

名称 中国語による入門演習——中国でコミュニケーションを実践する

指導教員 千野 拓政

受入機関

上海大学中文系・文化研究系

費用

約15万円(旅行代金の変動に伴い、変更があり得る)

実習場所

中国上海市上大路55号上海大学中文系・文化研究系

活動期間

2017年10月2日～2018年2月 3日(準備ゼミ)(8日間/計12時間)
2018年3月6日～2018年3月14日(実習)(9日間/計37.5時間)
(受け入れ機関の都合で変更の可能性あり)(総計17日間/49.5時間)

主な活動内容

- ①4日間午前中2コマ、担当教員の立ち会いの下に、上海大学の学生とともに上海大学の教授の中国語による語学授業を受ける。
- ②午後1コマ、中国人学生を相手にプレゼンテーション、コミュニケーションを行う。
- ③授業終了後2コマ、毎日一つ課題を設け、専門班と合同して、学内外で調査活動をおこなう。(例えば、上海の物価調査、学生生活インタビュー、上海各市区[旧県城、旧租界、建国後の開発区、近年の開発区など]の特徴の観察など。上海大学の学生が付きそう。)最終日に報告会を行い、成果を中国語で報告する。
- ④自由行動日を設け、グループに分かれて市内にでかけ、観察・調査を行う。調査対象は各グループが自己申告する。(5コマ)
- ⑤魯迅記念館、魯迅故居などを訪れ、解説員の中国語による説明を聞く。
- ⑥初級演習班の学生(1年生が主体)は、専門班と合同で調査活動を行うことで、パートナーシップの養成を図る。

評価方法 : ①秋期隔週開講の実習準備ゼミにおいて、リスニング、資料の解読、中国語による授業の受講を課す。与えられた課題をすべて終了することが求められる。
②上海での実習に参加し、中国語による授業、中国の学生相手のコミュニケーション、学内・市内での観察・調査活動を行う。(事前に授業の教材などは予習しておくことが求められる。)

募集時期 : 9月21日 ～ 10月2日

選考方法 : 文学学術院で1年間中国語を履修した程度の語学力を有すること。ならびに秋期に隔週開講する実習準備ゼミに参加し、中国語による授業、リスニング、プレゼンテーションなどの訓練を受けたうえで、実習に参加すること。
10月2日(月)2限に千野研究室で面接選考を行う。

備考 実習準備ゼミは秋期・隔週月曜2限または6限に千野研究室で行う。(時間割は履修者と相談して決定する)
海外への学生引率助成を申請の予定(毎年申請している)

2017年度「フィールド実習」一覧

2017年 3月 6日
文学学術院

名称 文化人類学フィールド実習

指導教員 西村 正雄

受入機関

ラオス人民民主共和国政府、情報文化観光省、ラオス国立大学

費用

約 26万5千円（文科省の助成金等をとって、減額してゆく努力はする）

実習場所

ラオスの都市：ヴィエンチャンとパクセ； および、ラオス南部、チャンパサック県チャンパサック郡村落地域

活動期間

2017年10月 8日、15日、2018年 1月13日（事前・事後授業）（3日間/計6時間）

2017年12月23日～2017年12月31日（実習）（6日間/計40時間）

（総計9日間/計46時間）

主な活動内容

＜目的＞文化人類学の本格的なフィールド調査の方法について、実際の海外の現場で、個人的に指導することを目的とする。本に書かれたものをそのまま学ぶのではなく、実践的にフィールド技術を学び、それを現場で臨機応変に応用する能力を身に付けさせることをめざす。

＜方法＞

（12月23日 東京からラオスへの移動）

①12月24日 現地のおけるオリエンテーション。ラオス政府関係者のあいさつと話を聞く

②12月25日 午前：ヴィエンチャンからパクセへ移動。午後：パクセのラオスの会社に行き、地方経済についての話を聞く。

③12月26日 午前、午後、チャンパサック県チャンパサック郡に滞在し、一村落内の農民の家で文化人類学フィールド調査。夜（19:00～20:00）、情報文化観光省、パクセオフィスの所長の授業を聴く。また、ミーティングを開き、当日昼行ったフィールド調査の結果を報告させ、翌日に向けフィードバックさせる。

④12月27日 26日から続けて、村落内の農民に家族を訪れ、そこで文化人類学的フィールド調査。夜（19:00～20:00）、チャンパサック郡の遺産担当者の授業を聴く。また、ミーティングを開き、当日昼行ったフィールド調査の結果を報告させ、翌日に向けフィードバックさせる。

⑤12月28日 26、27日と同じく、村落内の農民の家族を訪れ、そこで文化人類学的フィールド調査。夜（19:00～20:00）、村の宗教関係者から村人の信仰についての授業を聴く。また、ミーティングを開き、当日昼行ったフィールド調査の結果を報告させ、翌日に向けフィードバックさせる。

⑥12月29日 午前中、チャンパサックから、陸路タイに移動し、タイの地方都市、ウボンラチャタニから航空機でバンコックへ移動する。バンコックに移動したのち、午後ホテルにてフィールドワークの情報を分析してまとめる方法について授業を行う。

⑦12月30日 終日、フィールド情報の分析とまとめの作業を各自させる。夜、バンコックから航空機で東京に移動する。

（12月31日 早朝、東京に戻り、フィールド調査の実習を終了する。）

評価方法：事前・事後授業を行い、フィールドワークの結果を記述する作業、すなわち民族誌としてまとめて、記述する作業について、学生指導する。またその際同時に、学生から規定の活動報告書を回収する。その後、1月20日（土）締め切りをもって、民族誌をレポートとして回収して成績評価を出す。

募集時期：4月～9月20日

選考方法：第1次選考として、科目を希望した理由を書いてもらい書類選考を行う（書式は西村研究室にて配付）。その後、面接による2次選考を行う。日程は以下の通り。

A. 第1次応募期間：2017年4月～9月20日

B. 選考期間：2017年9月21日～22日

C. 面接（2次選考）：9月23日、25日。この両日中希望の時間。

備考

本授業は、すでに過去15年にわたって行ってきた授業の上で行うものである。この間、健康問題もなく、無事故で行ってきた。これは現地政府との緊密な連携の者に行われてきたためであり、本授業もこの緊密な連携の上で、細心の注意を払って行われるものであることを強調しておく。ラオス政府からの要求もあり、責任の所在を明確にするため、文学学術院とラオス政府との間にコントラクトを結んで、本プロジェクトを推進する。

以上